

第3節 史跡周辺の歴史的環境

1 旧石器時代

鹿児島市の旧石器時代の遺跡は、シラス台地縁辺部に数多く点在する。加治屋園技法の標識遺跡である市北部の加治屋園遺跡や細石刃文化期の遺物が大量に出土した西部の仁田尾遺跡、A T火山灰の下層から遺物が出土した南部の帖地遺跡等が代表的な遺跡として挙げられる。

2 縄文時代

縄文時代になると遺跡の数は増加し、市南部の掃除山遺跡は縄文時代草創期の初期定住を示す遺跡として、市北部の加栗山遺跡や西部の前原遺跡は縄文時代早期の集落遺跡として著名であり、草野貝塚は縄文時代後期の骨製装身具をはじめとする諸道具類が多数出土した遺跡としてよく知られている。

3 弥生時代～古墳時代

弥生時代以降になると、遺跡はより低い台地や微高地に形成されることが多くなり、市街地では弥生時代中期の集落である一之宮遺跡が古くから知られ、弥生時代の水田跡や古墳時代の集落が広がる鹿大構内遺跡（鹿児島大学構内とその周辺）、同じく古墳時代の集落が広がる武遺跡（鹿児島中央駅周辺）等がある。南部では弥生時代の大溝（環濠か？）が発見された北麓遺跡や弥生時代の鏡が発見された不動寺遺跡を代表例として挙げるができる。

4 古代～中世

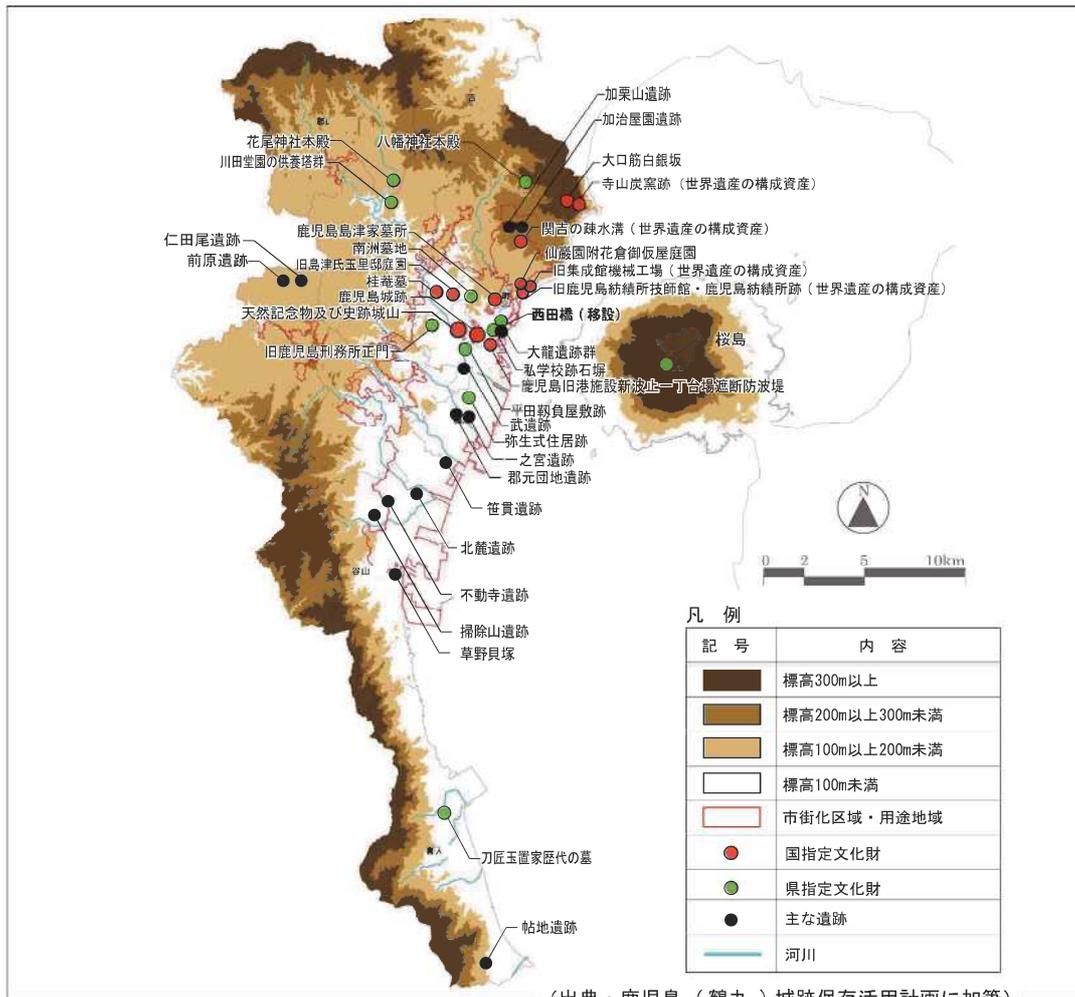
古代や中世の遺物も市内各所で点々と発見されるが、古代の遺跡としては鹿児島郡衙の可能性が高い一之宮遺跡や谷山郡衙の可能性が高い不動寺遺跡が挙げられる。中世の遺跡としては市内各所に点在する山城等がある。とりわけ、現在の鹿児島城より北側には、内城、清水城、東福寺城などの城郭が存在しており、島津氏の領国支配の歴史を物語る上で重要である。

5 近世～近代

近世では、薩隅日三州の僧禄所、勅願所及び島津宗家歴代当主の「霊廟」が建立され、藩主の菩提所として薩摩藩内最大寺院であった福昌寺跡（一部は史跡鹿児島島津家墓所）や、薩摩藩の藩窯として献上品や藩主をはじめ上級武士層が使用する日用品を製作した堅野冷水窯跡などは、藩主との関係が深い遺跡として重要である。

幕末から明治初めごろの産業遺産等は、平成27年（2015）に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つである旧集成館・寺山炭窯跡・関吉の疎水溝があり、関連する近代の遺跡として、薩摩藩による造営を経て廃藩後は陸軍所管となり、日本最大の火薬工場となった滝ノ上火薬製造所跡がある。

鹿児島市に点在する国指定及び県指定文化財のうち、主な史跡及び建造物、また主な遺跡について分布図にまとめる。



（出典：鹿児島（鶴丸）城跡保存活用計画に加筆）
 図2-6 鹿児島市内の主な史跡等分布図（天然記念物及び史跡城山保存活用計画に一部修正）



写真2-5 不動寺遺跡（市教委2016）



写真2-6 鹿児島島津家墓所（市教委2017）

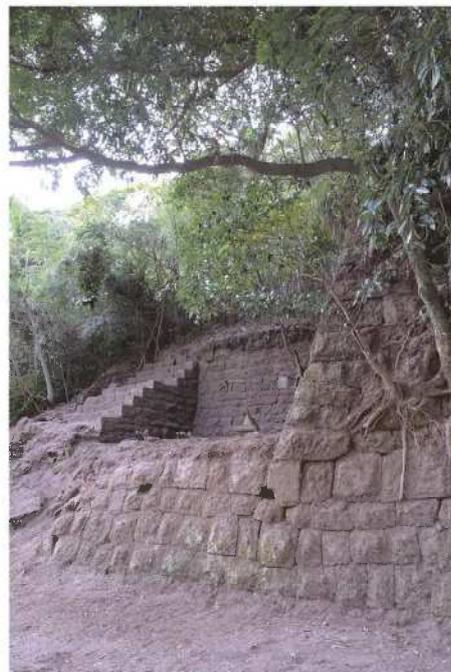


写真2-7 滝ノ上火薬製造所跡（県埋セ2021）

第4節 史跡鹿児島城跡周辺の文化財

史跡鹿児島城跡周辺に所在する指定文化財のうち、史跡鹿児島城跡の文化財的価値に関連する指定文化財は、次の表のとおりである。

表2-1 史跡鹿児島城跡周辺の国指定文化財 (令和7年(2025)4月30日現在)

区分	種別	名称	所在地	指定年月日
国宝	工芸品	太刀 銘国宗	黎明館	昭39. 5. 26
重要文化財	建造物	旧鹿児島紡績所技師館	吉野町9685-15	昭37. 6. 21
		旧集成館機械工場	吉野町9700	昭37. 6. 21
		鹿児島旧港施設 新波止 一丁台場 遮断防波堤	本港新町	平19. 12. 4
	工芸品	太刀 銘備前国住雲次 一口	尚古集成館	昭 2. 7. 21
		刀 銘相州住秋廣明徳三 一口	黎明館	昭25. 8. 29
		色々威胴丸 兜・大袖付 一領(肩萌黄)	黎明館	昭28. 3. 31
		色々威胴丸 兜・大袖付 一領(肩紫)	黎明館	昭28. 3. 31
		紺糸威鎧 兜・大袖付 一領	黎明館	昭28. 3. 31
	歴史資料	赤糸威鎧 兜・大袖・杏葉付 一領	尚古集成館	昭39. 5. 26
		文禄三年島津氏分国太閤検地尺石田三成署判一枚	尚古集成館	昭55. 6. 6
		木村嘉平関係資料	尚古集成館	平10. 6. 30
		銀板写真(島津斉彬像)	尚古集成館	平11. 6. 7
		形削盤 1863年 オランダ製	尚古集成館	平12. 6. 27
	大久保利通関係資料	黎明館	平16. 6. 8	
	犬追物関係史料(島津家伝来)	尚古集成館	平29. 9. 15	
記念物	史跡	鹿児島城跡	城山町	昭 6. 6. 3 追加指定 令 5. 3. 20
		桂菴墓	伊敷二丁目18	昭11. 9. 30
		旧集成館 附寺山炭窯跡 関吉の疎水溝	吉野町9700-1 他	昭34. 2. 25 追加指定 平26. 3. 18
		鹿児島紡績所跡	吉野町9685-15	昭34. 2. 25 追加指定 平27. 3. 10
		大口筋 白銀坂 龍門司坂	宮之浦町 他	平18. 7. 28
		鹿児島島津家墓所	池之上町 他	令 2. 3. 10
	名勝	仙巖園附花倉御飯屋庭園	吉野町9700	昭33. 5. 15 追加指定 平25. 10. 17
		旧島津氏玉里邸庭園	玉里町3387	昭19. 7. 26
	天然記念物	城山	城山町	昭6. 6. 3
		薩摩鶏	地域定めず	昭18. 8. 24

表2-2 史跡鹿兒島城跡周辺の県指定文化財

(令和7年(2025)4月30日現在)

区分	種別	名称	所在地	指定年月日
有形文化財	建造物	西田橋	石橋記念公園	昭28. 9. 7
		花尾神社本殿(附宮殿三基) ・祝詞殿・幣殿・拝殿	花尾町4044-1	平14. 4. 23
		旧島津家別邸 主屋	吉野町	令 7. 4. 30
	絵画	釈迦八相之図	黎明館	昭30. 1. 14
		富嶽雲烟之図 一幅	市立美術館	昭42. 3. 31
		武将像(伝島津忠久画像) 一幅	尚古集成館	昭54. 3. 14
	彫刻	不動明王像	南洲寺	昭30. 1. 14
		伝島津忠昌像	尚古集成館	平 7. 4. 12
		大権現忠国(島津忠国)像	尚古集成館	平 7. 4. 12
	工芸品	紡績機	尚古集成館	昭31. 9. 27
		刀 銘 薩州住藤原正房 一口	黎明館	昭31. 9. 27
		刀 銘 主馬首一平安代 一口	黎明館	昭31. 9. 27
		刀 銘 主馬首藤原朝臣一平安代 一口	黎明館	昭35. 6. 20
		刀 銘 奥大和守平朝臣元平	黎明館	昭53. 3. 8
		刀 銘(一葉葵紋)主馬首一平藤原安代	黎明館	昭58. 4. 13
		刀 銘(一葉葵紋)主水正藤原正清	黎明館	昭58. 4. 13
		茶器 平野肩衝 一口 附 目録並附属品	尚古集成館	昭55. 3. 31
		薩摩硝子 島津家伝来	尚古集成館	平17. 4. 19
		葵牡丹紋七宝繫蒔絵雜道具	尚古集成館	平20. 4. 22
		白釉茶碗火計手	市立美術館	平23. 4. 19
		黒蛇蝸釉茶碗	黎明館	平23. 4. 19
		白蛇蝸釉茶碗	黎明館	平23. 4. 19
	書跡	東郷家古文書	東千石町	昭34. 10. 23
		敬天愛人 一幅	西郷南洲顕彰館	昭42. 3. 31
		為政清明 一幅	市立美術館	昭42. 3. 31
		桑幡文書	黎明館	昭29. 3. 15
	古文書	規式・料理関係文書	尚古集成館	平18. 4. 21
歴史資料	島津貴久所用時雨の旗一旅ほか十六旒	尚古集成館	昭62. 3. 16	
	英艦入港戦争図一薩英戦争絵巻一	尚古集成館	平 9. 4. 21	
無形文化財	薩摩琵琶	薩摩琵琶同好会	昭37. 10. 24	
	天吹	天吹同好会	平 2. 3. 23	
記念物	史跡	平田鞆負屋敷跡	平之町6-1	昭29. 5. 24
		南洲墓地	上竜尾町2	昭30. 1. 14
		私学校跡石堀	城山町8-1	昭43. 3. 29
		刀匠玉置家歴代の墓	喜入町	昭60. 4. 19
		祇園之洲台場跡	清水町10番2号外	令 4. 4. 26
		天保山台場跡	天保山町24	令 7. 4. 30

表2-3 史跡鹿児島城跡周辺の市指定文化財

(令和7年(2025)5月1日現在)

区分	種別	名称	所在地	指定年月日	
有形文化財	建造物	旧島津氏玉里邸長屋門	玉里町27番1号	平28. 3. 23	
	彫刻	安藤照作 西郷隆盛銅像	城山町4	令 4. 4. 21	
	工芸品		小田派諸工匠の鐔	黎明館	昭49. 3. 15 追加指定 令 7. 3. 21
			刀 銘波平行周文化八年二月 日	黎明館	昭52. 5. 20
			刀 銘薩州住藤原正盛	黎明館	昭52. 5. 20
			刀 銘主馬首藤原朝臣安代子一平安在作	黎明館	昭52. 5. 20
			刀 銘波平安氏	城山2丁目	昭52. 5. 20
			刀 銘大和守波平安行	黎明館	昭52. 5. 20
			刀 銘奥大和守平朝臣元平	松原町	昭52. 5. 20
			短刀 銘波平友安作「八月吉日」	黎明館	昭55. 5. 28
			刀 銘波平近安	黎明館	昭58. 4. 12
	歴史資料		天保年間鹿児島城下絵図	市立美術館	平元. 3. 31
			市来家文書	黎明館	平17. 3. 31
記念物	史跡	西郷隆盛洞窟	城山町19-9	昭49. 3. 15	
		西郷隆盛終焉の地	城山町12-7	昭49. 3. 15	
		本立寺跡	清水町	平元. 3. 31	
		南泉院歴代住職の墓	小野三丁目	平元. 3. 31	
		心岳寺跡	吉野町10691	平12. 10. 12	
		仏智山津友寺跡	西佐多町西麓上 351	平17. 3. 31	
		桐野利秋田廬跡と田廬碑	本城町	平17. 3. 31	
		島津義弘蟄居跡	桜島藤野町	平17. 3. 31	
		沖小島砲台跡	桜島横山町沖小島 2	平17. 3. 31	
		町田家の墓	石谷町	平17. 3. 31	
		石谷の石坂	石谷町石谷西	平17. 3. 31	
		花尾神社の石塔群	花尾町	平17. 3. 31	
		川田氏累代墓石塔群	川田町	平17. 3. 31	
		喜入牧の苜跡	喜入一倉町	平27. 9. 2	
		清泉寺跡	下福元町	令 4. 4. 21	
	名勝		慈眼寺跡	下福元町3816	昭49. 8. 23
			郡山花尾神社の社叢林	花尾町	平31. 2. 7

第5節 史跡指定に至るまでの調査成果

1 鹿児島県による鶴丸城跡保全整備事業開始以前の調査

鹿児島城跡では、鹿児島県教育委員会、鹿児島県立埋蔵文化財センター、黎明館、鹿児島市教育委員会によって46地点で発掘調査が行われている。

鹿児島城跡は、明治6年（1873）の火災や明治10年（1877）の西南戦争、大正3年（1914）の桜島大噴火に伴う地震、太平洋戦争によって多くの建物や石垣が失われ、近代以降に城域を区切る南北の堀も埋め立てられ、その跡地は大部分が都市化している。そのため、地上には城の残存遺構は少ない。また、本丸跡を除く調査の多くは民間開発に伴う小規模発掘調査となっており、城跡の全容解明を困難にしている。

鹿児島城跡では、昭和50年代後半になると、県立図書館造成に伴う発掘調査から、黎明館、市立美術館等の現在のかごしま文化ゾーンの文化施設建設に伴う発掘調査が行われるようになる。これらの調査成果により、個別での地点での鹿児島城跡の調査成果は蓄積されてきた。平成10年代以降には、二之丸周辺で民間開発に伴う発掘調査が行われるようになり、現在も続いている。

2 鹿児島県による鶴丸城跡保全整備事業に係る調査成果

史跡鹿児島城跡（事業開始当時は県指定史跡鶴丸城跡）の石垣について、樹根の張り出し等の要因による部分的な孕み出しや隙間等が見られることから、修復を要する部分の優先度を考慮して必要な箇所から順次修復工事を実施し、その保全を図ることを目的に黎明館により平成24年度に事業が開始された。

当該事業により、本丸跡を中心とした麓の居館部分の調査が進み、これまでの個別の調査成果も集約され、鹿児島城跡の全容がわかるようになった。当該事業は、現在も黎明館の主管課である県文化振興課により継続されている。

(1) 平成24年～25年度

黎明館では、平成24年（2012）～平成25年（2013）にかけて鹿児島城跡の石垣の保全を目的として、石垣の現況を把握するための調査が実施され、北御門跡周辺と隅欠、緊急性の高い2箇所を特定し、その後の管理方針等が示された（鶴丸城石垣現況基礎調査業務委託）。この際、石垣の石材が溶結凝灰岩で、その中でも約50万年前の吉野火砕流堆積物「たんたど石」であること、御楼門枳形周辺には、石垣の天端線が出隅部で反り上がる「キオイ」があること、石垣周辺に縁取りがあること等、現在の鹿児島城跡の石垣の基本となる情報が報告された。

また、石垣に関しては、「想定以上に修理回数が多く複雑な石垣である」とし、石垣の部分ごとの築造年代を区分することは困難であるとしているが、一部の石垣構築時期を推定している。その中でも、「布積みの打込み接ぎ、切込み接ぎ」段階（H005-3面）が寛永年間（1624年～1644年）、御楼門正面石橋の右隅脇下部の「乱積の切込み接ぎ」部分や各面の上方部、県立図書館側の石垣、御楼門周りの枳形石垣に用いられている「亀甲崩し積み」部分（H005-1面）や御楼門枳形周辺（H006-H013）が、元禄年間（1688年～1704年）に積まれ、「亀甲崩し積み」については、天明7年（1787）～寛政4年（1792）の第8代薩摩藩主島津重豪の「二之丸」の改変と大規模な殿舎の造営の時期に修理された可能性があることが示された。

(2) 平成26年度～令和3年度 御楼門建設に伴う発掘調査等

平成24年（2012）に鹿児島経済同友会が中心となり、「御楼門復元検討委員会」が設立され、民間主導による復元計画を盛り込んだ鹿児島城跡の御楼門復元に向けた方向性の提言が発表された。その後、県内経済5団体などを中心に御楼門復元実行委員会が設立され、寄附金募集が始まった。平成27年（2015）2月に民間主導による新たな官民連携の一つのモデル事業として、鶴丸城御楼門復元実行委員会と鹿児島県とで鶴丸城御楼門建設協議会が設立された。

御楼門建設の動きの中で、今後の鹿児島城跡の整備に向けて、鹿児島県は平成26年（2014）に城郭史や建築史、考古学等の各分野の専門家で構成する「鶴丸城跡保全整備事業に係る専門家検討会議」を設置した。同委員会は、令和4年（2022）まで継続し、鹿児島城跡の保全整備の方向性についての指針を示した。

鹿児島城跡は、山城部分である城山の一部が国の天然記念物及び史跡、本丸跡の石垣と堀などが県指定史跡となっていた。御楼門建設予定地は、県指定史跡の範囲内であることから、文化財としての位置付けを改めて整理し、本質的価値と構成要素などを明確化し、それらを適切に保存管理・整備活用していくための基本方針、方法、現状変更の取扱い基準や整備の方向性、全体像を定めるために、専門家検討会議の意見を踏まえて保存活用計画を策定した。この保存計画策定により、御楼門建設のみならず、城の範囲や構成要素など様々な現状が把握され、広大な城域も改めて示された。その中で、鹿児島城跡の本質的価値を構成する要素の一つとして「本丸、二之丸、御厩の石垣」を位置付け、石垣修復方針や修理の際の工法選択、石垣の特徴や形態別区分など、石垣保全に関する基本的な考え方が示されている。保存活用計画では、これまでの石垣修復履歴やその範囲の整理が行われるとともに、石垣石材の加工度や積み方による築石部と隅角部の石垣分類が示され、石垣各面でのそれぞれの分布状況が示された。石垣調査報告書でも、基本的にはこの石垣分類を基本としている。

御楼門の復元に際しては、鶴丸城跡保全整備事業に係る専門家検討委員会や技術検討会議（建築・意匠部門）に諮りながら、明治初期に撮影された古写真の解析や、現存する礎石等遺構、埋蔵文化財発掘調査の成果、絵図・史料を検討し、また、現存する他の城門の類似例を参考として、可能な限り史実に忠実な復元を行った。御楼門建設に伴う建築史の調査によって、石垣の編年も示された。こうした埋蔵文化財発掘調査や資料調査等の成果により、御楼門建設は歴史的建造物を復元する際の文化庁の基準を満たし、建築基準法の適応については、同法第3条第1項第4号に規定する認定により、同法の適用を受けない建築物と位置付けられた。御楼門は、令和2年（2020）3月に日本最大級の城門として完成し、同2年4月11日には、完成式が行われた。

御楼門建設に併行して、現存する石垣や礎石などの遺構の損傷などを防ぐため、鶴丸城跡保全事業を実施し、県立埋蔵文化財センターの発掘調査による石垣背面構造等の情報収集が行われた。資料調査も進められ、これまで散在していた情報が集約されていくと、江戸時代を通じて数多くの文献や絵図が残されていることが明らかになった。埋蔵文化財発掘調査では、能舞台跡や石組の排水施設、御庭跡等が確認され、オ

ランダの書物を参考にしたと考えられる石製日時計が出土し、江戸時代の鹿児島城跡についての新たな知見が蓄積された。また、御楼門周辺石垣では、石垣に残る窪みが西南戦争の銃弾・砲弾跡（一部は太平洋戦争時の銃弾）であることが確認され、鹿児島城跡が近代遺跡としても重要な遺跡であることが明らかになった。

これらの調査成果は、「現状の城の痕跡からは内堀と石橋、石垣などがわずかに残されているのみで、天守を持たない小さな城である」と捉えられてきた鹿児島城跡のイメージを大きく変え、鹿児島城跡の史跡追加指定の際に、本質的価値として認められた。なお、整理作業は令和3年（2021）まで行われ、同年度に発掘調査報告書が刊行された。

平成27年（2015）～平成28年（2016）には、御楼門部の石垣修復及び排水溝の保存整備に係る石垣背面の土性・地下水位状況確認調査を行った。このうち、地下水位状況調査については、検討会議において、石垣に影響はないとの結論が得られたため、令和2年（2020）で観測を終了した。

（3）平成27年度～令和元年度 石垣修復等に伴う調査

平成27年（2015）には北御門周辺の石垣の一部が崩れ、令和2年（2020）に埋蔵文化財発掘調査と併行して石垣修復工事が行われた。発掘調査では、現在の石垣の裏から堀の一部が発見され、鹿児島城跡本丸北側の堀が築城当時は現在よりも広がったことが確認された。

平成30年（2018）～令和元年（2019）には、御楼門橋の修復工事が行われた。修復工事では、傷んだ石材やコンクリートで改変された部分の補修、新石材への取替を行った。工事の際には、橋と接する部分の石垣に、木橋を架けた跡の可能性のある凹みを確認され、御楼門側の橋下の石垣に文字のような痕跡が確認されるなど、新たな発見があった。

御楼門橋の欄干上の擬宝珠は、太平洋戦争中の金属供出によって失われ、戦後は新たに造られた鋳鉄製のものが載っていたため、西田橋の擬宝珠を参考に青銅製のものに改めた。

（4）令和元年度～令和3年度 鹿児島城跡の史跡追加指定に向けた調査成果

令和元年（2019）から3か年かけて、県立埋蔵文化財センターと鹿児島市教育委員会により城域内の埋蔵文化財発掘調査が実施された。発掘調査では、本丸大奥や唐御門跡などの重要遺構、大手口や山城（本丸）の土塁が確認され、鹿児島城跡の範囲や構造が明らかになった。令和3年（2021）には、埋蔵文化財発掘調査の成果と文献調査の成果が総括報告書として刊行された。

令和4年（2022）には、文化庁に史跡追加指定の意見具申を行い、令和5年（2023）3月20日には、鹿児島城跡が史跡に追加指定された（史跡「城山」に麓の居館部分を加えた範囲が新たに追加され、名称を「鹿児島城跡」に変更）。

表 2-4 史跡鹿児島城跡 過去の調査歴一覧（指定地内）

実施年度	調査箇所		事業・地点	調査の種類	調査主体	備考	地図番号
昭52	鹿児島（鶴丸）城 鹿児島城跡（二之丸）	B地点	県立図書館	本調査	県教委		②
昭53	鹿児島（鶴丸）城 本丸跡	A地点	明治100周年記念館（現：黎明館）	本調査	県教委		①
昭61	上山城跡		二之丸跡（城山トンネル上）	確認調査	市教委		⑳
平11	鹿児島（鶴丸）城 本丸跡	A地点	石垣修復工事（御角櫓跡）	本調査	県教委		①
平26	鹿児島（鶴丸）城 本丸跡	A地点	鶴丸城跡保全整備事業 石垣修復等 御楼門跡周辺	確認調査	県教委		①
平27	鹿児島（鶴丸）城 本丸跡	A地点	鶴丸城跡保全整備事業 石垣修復等 御楼門跡周辺、御角櫓跡調査区、能舞台跡調査区	確認調査	県教委		①
平28	鹿児島（鶴丸）城 本丸跡	A地点	鶴丸城跡保全整備事業 石垣修復等 御楼門跡周辺、御楼門跡南側、外御庭、北御門跡調査区	確認調査	県教委		①
平28	鹿児島（鶴丸）城 鹿児島城跡（二之丸）	B地点	二之丸跡城跡保全整備事業 石修復等	確認調査	県埋セ		②
平29	鹿児島（鶴丸）城 本丸跡	A地点	鶴丸城跡保全整備事業 石垣修復等 御楼門跡周辺、御楼門跡南側、北御門跡調査区、御角櫓跡調査区、外御庭	確認調査	県教委		①
平30	鹿児島（鶴丸）城 本丸跡	A地点	鶴丸城跡保全整備事業 石垣修復等 御兵具所跡、御進物蔵跡、御池跡	確認調査	県教委		①
令元	鹿児島（鶴丸）城 鹿児島城跡（二之丸）	B地点	鶴丸城跡保全整備事業 国史跡指定に向けた調査	確認調査	県埋セ		②
令元	鹿児島（鶴丸）城 本丸跡	A地点	鶴丸城跡保全整備事業 国史跡指定に向けた調査 堀周辺	確認調査	県埋セ		①
令2	鹿児島（鶴丸）城 本丸跡	A地点	鶴丸城跡保全整備事業 石垣修復等 北御門跡周辺石垣修復調査区	確認調査	県教委		①
令2	鹿児島（鶴丸）城 本丸跡	A地点	鶴丸城跡保全整備事業 国史跡指定に向けた調査 唐御門跡	確認調査	県埋セ		①
令2	鹿児島城跡（大手口）		鶴丸城跡保全整備事業 国史跡指定に向けた調査	確認調査	県埋セ		㉖
令2	上山城跡		鶴丸城跡保全整備事業 国史跡指定に向けた調査 二之丸跡、土塁	確認調査	市教委		㉔
令3	鹿児島（鶴丸）城 本丸跡	A地点	鶴丸城跡保全整備事業 国史跡指定に向けた調査 本丸大奥跡	確認調査	県埋セ		①
令3	上山城跡		鶴丸城跡保全整備事業 国史跡指定に向けた調査 本丸跡、二之丸跡曲輪間の空堀	確認調査	市教委		㉕

表 2-5 史跡鹿兒島城跡 過去の調査歴一覧（指定地外）（1）

実施年度	調査箇所	地点	調査の種類	調査主体	備考	地図番号
昭58	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸跡C地点	本調査	市教委		⑤
昭59	名山遺跡		確認調査	市教委		②9
昭60	名山遺跡		確認調査	市教委		②9
昭61	名山遺跡		確認調査	市教委		②9
平3	造士館跡・演武館跡		本調査	市教委		②8
平6	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸跡F地点	確認調査	市教委		⑧
平8	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸跡D地点	確認調査	市教委		⑥
平10	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸跡G地点	本調査	市教委		⑨
平11	鹿兒島（鶴丸）城 （御厩跡）		確認調査	市教委		②2
平12	垂水・宮之城島津家屋敷跡		本調査	県埋セ		③3
平13	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸I地点	確認調査	市教委		①1
平13	名山遺跡		確認調査	市教委		②9
平14	琉球館跡		確認調査	市教委		③5
平15	琉球館跡		確認調査	市教委		
平15	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸跡 （県立博物館地点）	本調査	県教委		④
平16	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸J地点	確認調査	市教委		①2
平18	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸K地点	確認調査	市教委		①3
平18	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸L地点	確認調査	市教委		①4
平19	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸M地点	確認調査	市教委		①5
平21	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸N地点	確認調査	市教委		①6
平24	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸O地点	確認調査	市教委		①8
平24	市役所西別館		試掘	市教委		③2
平25	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸跡H地点	確認調査	市教委		①0
平26	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸南西端	確認調査	市教委		①7
平26	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸P地点	確認調査	市教委		①9
平27	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸Q地点	確認調査	市教委		②0
平28	鹿兒島（鶴丸）城 （御厩跡）		本調査	市教委		②2
平29	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸跡E地点	本調査	市教委		⑦
平29	鹿兒島城跡 （犬追物馬場・火除地）		本調査	県埋セ		③0
令元	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸R地点	確認調査	市教委		②1
令元	鹿兒島（鶴丸）城 鹿兒島城跡（二之丸）	二之丸跡 （旧考古資料館地点）	確認調査	県埋セ	国指定史跡に向けた調査	③
令2	鹿兒島城跡（南泉院）		確認調査	県埋セ	国指定史跡に向けた調査	②7
令2	鹿兒島城跡（吉野堀）		確認調査	県埋セ	国指定史跡に向けた調査	③4
令2	琉球館跡		確認調査	県埋セ	国指定史跡に向けた調査	③6

表 2-5 史跡鹿児島城跡 過去の調査歴一覧（指定地外）（2）

実施年度	調査箇所	地点	調査の種類	調査主体	備考	地図番号
令 3	鹿児島城跡 (犬追物馬場・火除地)		本調査	県埋セ		㉑
令 5	鹿児島(鶴丸)城 鹿児島城跡(二之丸)	二之丸跡S地点	確認調査	市教委		㉒
令 5	鹿児島(鶴丸)城 鹿児島城跡(二之丸)	二之丸跡	本調査	県埋セ		㉓

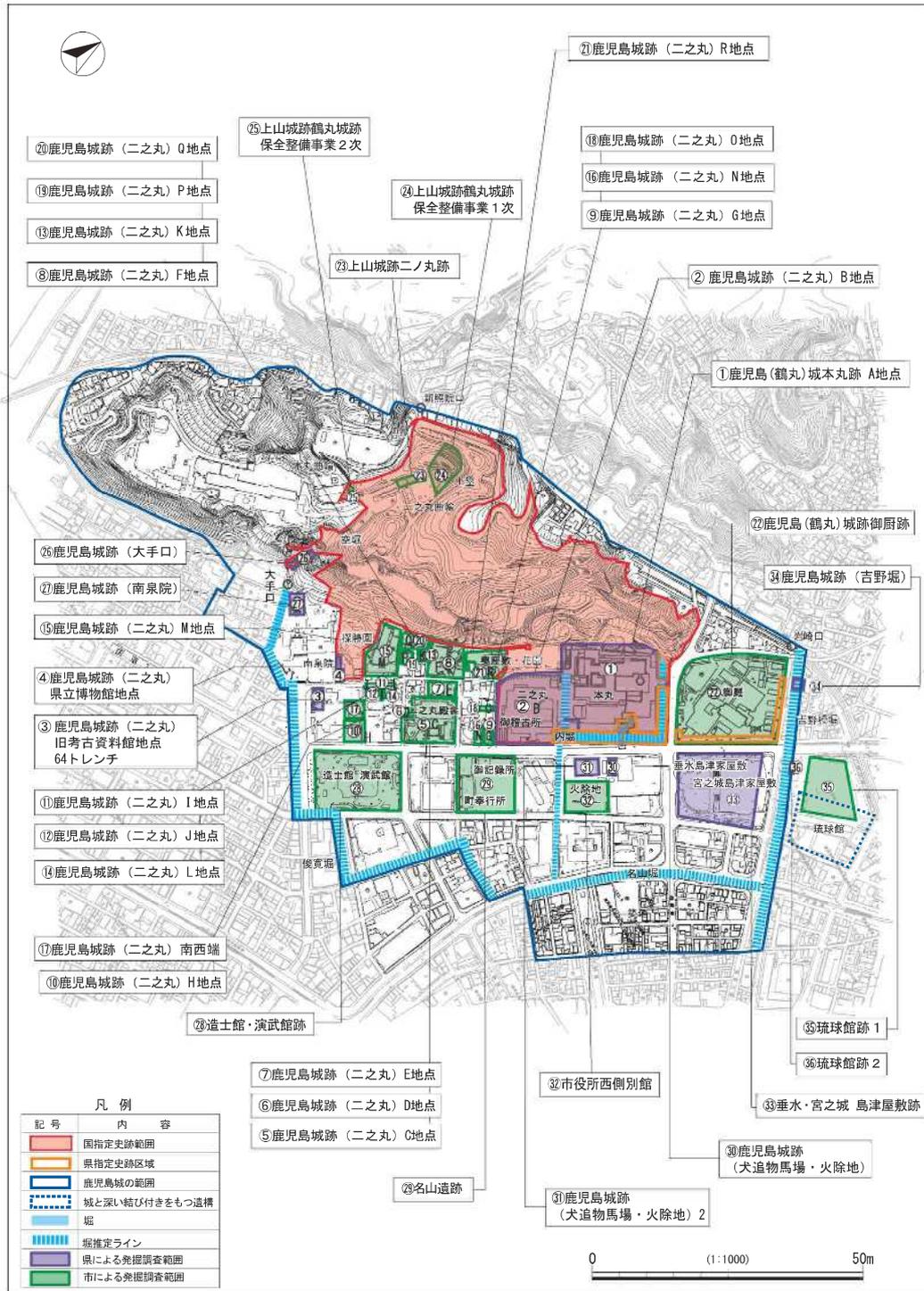


図 2-7 史跡鹿児島城跡 過去の発掘調査地点